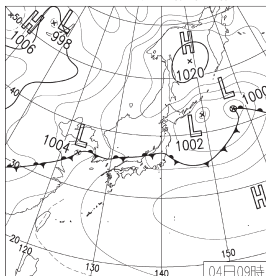


日々の天気図

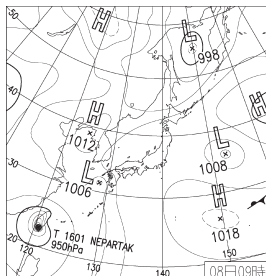
— No. 174

2016年7月

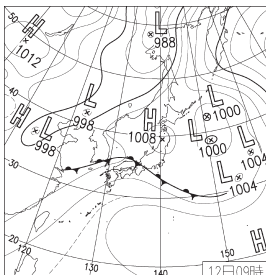
- ・3日、台風第1号発生。1951年～の統計で98年7月9日に次ぐ遅さ。
 - ・14日、関東甲信等で雷雨。突風も。茨城県水戸で直径25 mmの降ひょう。
 - ・24日、沖縄県で海水浴場に落雷。
 - ・26日、一連の熊本地震で前震以降初めて熊本県内の有感地震ゼロ。
 - ・27～31日、北海道各地で大雨。
- (気象庁予報部予報課)



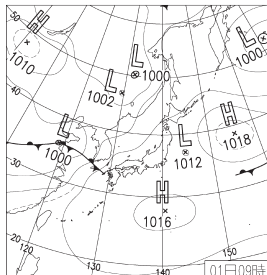
4日(月)西・東日本で猛暑続く
西～東日本日本海側に前線停滞し南側の暖かく湿った空気の影響で所々激しい雷雨。竜巻など突風被害も。山梨県勝沼で37.9°C。甲府の最大風速16.9 m/sは7月の1位を更新。



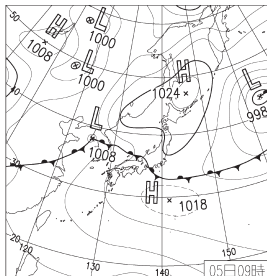
8日(金)台風第1号は台湾上陸
湿った空気が流入した九州南部で大雨。鹿児島県内之浦で89.5 mm/1h。宮崎県深瀬は史上1位の77 mm/1h。日降水量は鹿児島県平島297.5 mm、内之浦294.5 mmで7月1位タイ。



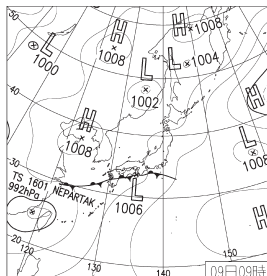
12日(火)梅雨前線、西日本に停滞
梅雨前線が対馬海峡から山陰・東海にのび、西日本～東海で曇りや雨。高気圧に覆われた関東や北日本は晴れ。九州各地で激しい雨。宮崎県えびので59 mm/1hと非常に激しい雨。



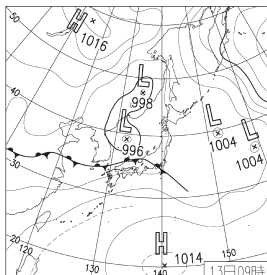
1日(金)九州・関東で局地的大雨
黄海の低気圧から前線がのび九州は曇りや雨、ほかは概ね晴れたが湿った空気入り大気の状態不安定。鹿児島県阿久根77 mm/1h、栃木県大田原67.5 mm/1h、岐阜県多治見で34.6°C。



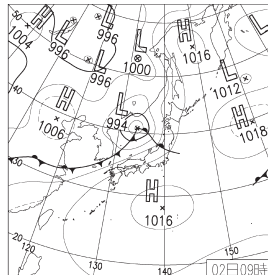
5日(火)西と東で気温に差
日本海に前線停滞。東海以西は晴れて最高気温は真夏並、猛暑日の所も。午後は山間部で局地的な雨や雷。北陸や関東～東北部は前線や湿った空気により曇り多く最高気温は5月並。



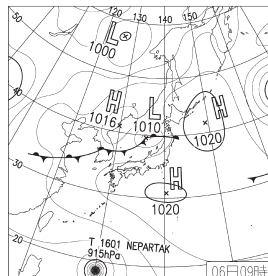
9日(土)和歌山県で猛烈な雨
低気圧が本州南岸沿いを東進し西日本～東日本で雨。和歌山県南紀白浜で史上1位の97.5 mm/1h。九州南部～四国でも非常に激しい雨。台風第1号は中国へ。熊本県で震度4。



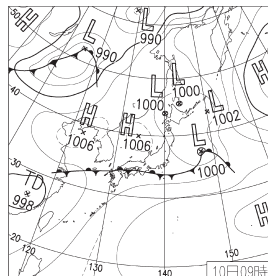
13日(水)九州北部中心に大雨
梅雨前線は西～東日本をゆっくり南下。北日本の一部で晴れたほかは雨。熊本県八代で68.5 mm/1h、阿蘇山で日降水量232 mm、長崎県厳原でも朝までの24時間で230 mm超の大雨。



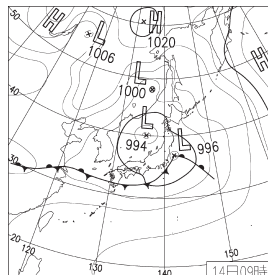
2日(土)北陸中心に猛暑日
前線を伴う低気圧が日本海を進み九州や北日本で激しい雨。北海道では奥尻37.5 mm/1hなど7月1位。西・東日本は気温上昇し、金沢・富山県伏木で37°Cなど北陸中心に猛暑日。



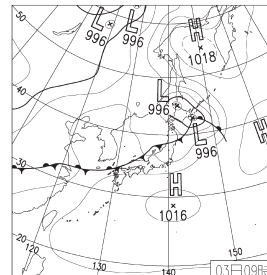
6日(水)台風第1号、猛烈に
低気圧や前線、湿った空気の影響で北陸・東北中心に雨。新潟県宮寄上で37.5 mm/1h。一方、関東以西は晴れて気温上昇し西日本中心に猛暑日。台風第1号は沖縄の南へ西北西進。



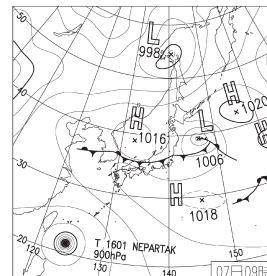
10日(日)梅雨前線、九州に停滞
前線活動が活発化し九州～四国で激しい雨や雷。鹿児島県内は古く別府で61 mm/1hなど各地で非常に激しい雨。寒気を伴う低気圧が接近した北海道も激しい雨や雷。



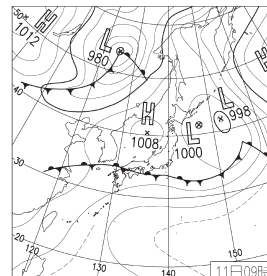
14日(木)茨城県で降ひょう
西～東日本は上空寒気の影響で大気の状態が不安定となり、関東中心に雷雨。東日本各地で突風。水戸で降ひょう。九州・関東で非常に激しい雨。熊本県高森で7月1位の75.5 mm/1h。



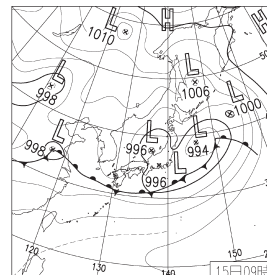
3日(日)台風第1号発生
北海道を低気圧東進、前線が本州日本海側に停滞し西日本で激しい雷雨。島根県福光54 mm/1h。太平洋側は晴れて東海・関東中心に東京も猛暑日。三重県尾鷲の38.6°Cは史上1位。



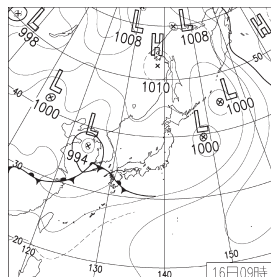
7日(木)台風第1号先島諸島接近
沖縄・奄美で雨強まり、鹿児島県喜界島73.5 mm/1hと7月の1位。関東以西は高気圧に覆われ関東・東海など51地点で猛暑日。山梨県勝沼38.8°C。北陸や東北は前線の影響で曇りや雨。



11日(月)九州で大雨続く
梅雨前線が西日本をゆっくり北上し九州中心に激しい雨。島根県川本の59 mm/1hは史上1位。高気圧に覆われた東日本内陸中心に気温上昇し猛暑日。群馬県館林で最高気温37°C。

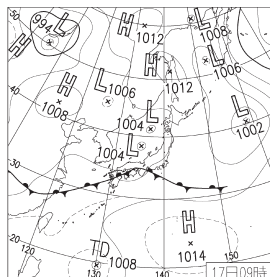


15日(金)東日本で局地的な大雨
能登沖の寒気を伴う低気圧の影響で不安定な大気の状態が続いたため、北陸や関東中心に各地で局地的な激しい雨。横浜で81 mm/1hの猛烈な雨、千葉県牛久で7月1位の79 mm/1h。



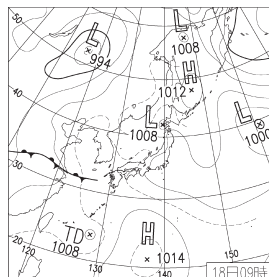
16日(土)梅雨空続く

日本付近は気圧の谷に入り、梅雨前線が九州を北上。前線から離れている沖縄で晴れたほかは曇りの所多く、九州では雨や雷。福岡県早良脇山で30 mm/1hの激しい雨。



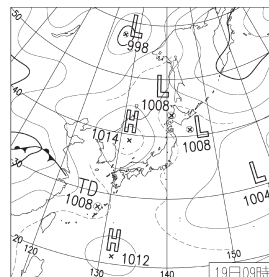
17日(日)九州で激しい雨

梅雨前線が西～東日本に停滞。西日本は大気の状態が不安定で各地で雷や雨。日本海の低気圧の影響で東・北日本も曇りや雨。沖縄・奄美は晴れ。茨城・埼玉県など関東で震度4。



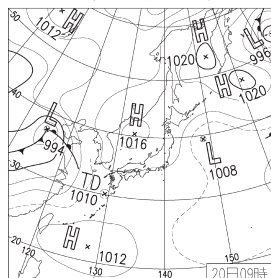
18日(月)西日本等梅雨明け発表

梅雨前線は次第に消滅し、西日本と東日本太平洋側は晴れ。山梨県勝沼で37.5°C。真夏日地点数も全国で440。沖縄は熱帯低気圧の影響で雷雨、北日本は気圧の谷の影響で曇りや雨。



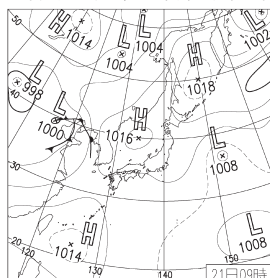
19日(火)東海以西は夏空

西～東日本は晴れて気温上がり。宮崎県加久藤で36.1°C。山梨県勝沼で36°C。真夏日地点数は445。北日本は曇りや雨で最高気温が平年より低く5月並の所も。千葉県で震度4。



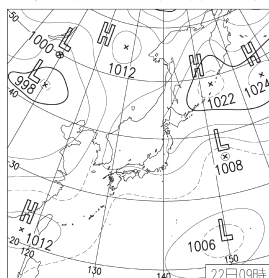
20日(水)西日本や関東で雨

熱帯低気圧により九州南部中心に西日本で局地的大雨。鹿児島県入道で7月1位の69.5 mm/1h。湿った空気が流入した関東も局地的な非常に激しい雨。茨城・栃木・埼玉県で震度4。



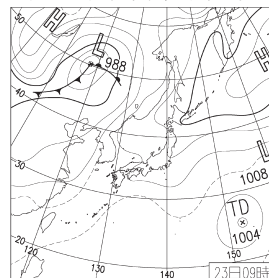
21日(木)関東で雨

千島近海の高気圧から湿った空気が本州太平洋側に流れ込み、関東南部中心に雨で激しい雨の所も。東京都三宅坪田で36.5 mm/1h。関東中心に気温上がらず最高気温は5月並。



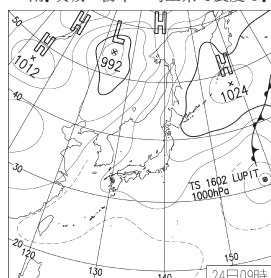
22日(金)東海沿岸も雨

千島近海の高気圧から湿った空気の流入続き、北～東日本の太平洋側では曇りや雨の所多い。西日本や北陸などは晴れて気温上昇。南の高気圧に覆われた沖縄・奄美も晴れ。



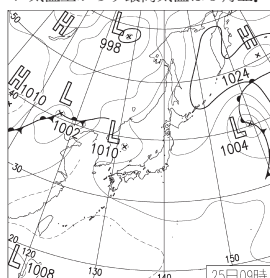
23日(土)千島近海の高気圧圏内

冷たい北東風が入る北～東日本太平洋側では曇り、最高気温が平年より5°C以上低く、5月中～下旬並の所も。その他は晴れて、大分県日田では最高気温35.9°C。



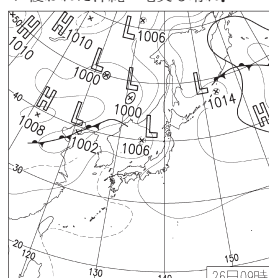
24日(日)台風第2号発生

千島近海の高気圧が張り出し、北日本中心に太平洋側で平年より3～6°C低い最高気温。宮崎県高鍋で3時間に97 mmの雨。南鳥島近海で台風第2号発生。北海道で震度4。



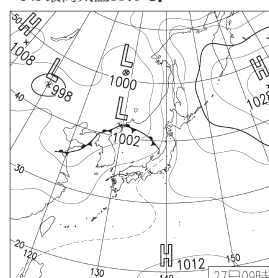
25日(月)西日本で広く雨

日本海の低気圧に流れ込む湿った空気の影響で西日本や北陸は雨や曇り。山間部では局地的な雨。熊本県阿蘇山で58.5 mm/1hの非常に激しい雨。台風第2号は未明に温帯低気圧へ。



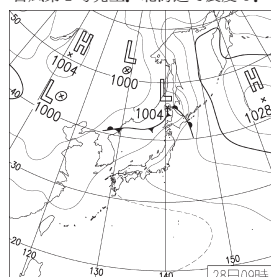
26日(火)北陸中心に激しい雷雨

近畿～東日本は湿った空気が流入。富山で44.5 mm/1h。新潟県高田で日降水量137.5 mm。沖縄～中国・四国、北海道は高気圧に覆われ晴れた所多い。南シナ海で台風第3号発生。



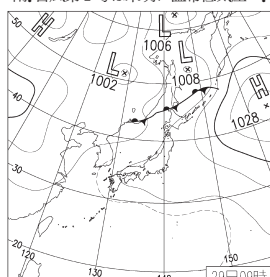
27日(水)北海道で大雨

日本海を前線を伴った低気圧が東進。東海・北陸、北日本で局地的な大雨。新潟県筒方52.5 mm/1hは史上1位。北海道カルルス日降水量218.5 mmは7月の1位。茨城県で震度5弱。



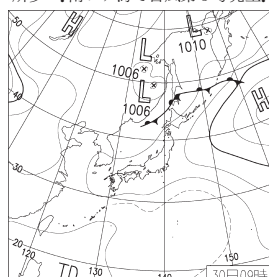
28日(木)関東甲信梅雨明け発表

沖縄～西日本は概ね晴れ。全国の真夏日の地点数は506は今年これまでの最多。北海道は低気圧・前線の影響による大雨で中梓白で39.5 mm/1h。笹山で日降水量161 mmなど7月1位。



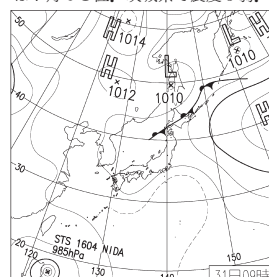
29日(金)東北も梅雨明け発表

北海道を除き概ね晴れ。午後、大気の状態が不安定となり、西日本～東北の所々で雨。新潟県大湯で61 mm/1h。北海道は停滞前線の影響で日高、胆振地方を中心に大雨。



30日(土)晴れて気温上昇

北海道を除き高気圧圏内で晴れ。全国の7割以上662地点で真夏日、32地点で猛暑日。本州以北の山間部は局地的な雨や雷。山形で51 mm/1h。フィリピンの東で台風第4号発生。



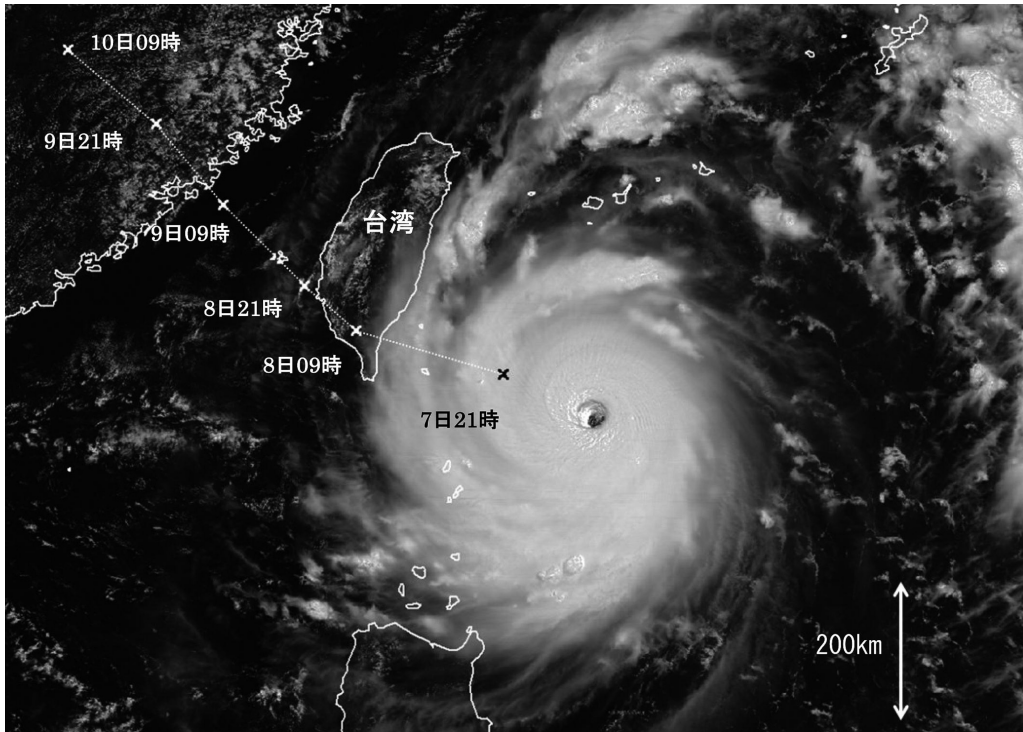
31日(日)各地でわか雨や雷雨

寒気や気圧の谷の影響で関東や北海道で時々雨。ほかは晴れたか所々で雷雨。群馬県榛名山82 mm/1hで7月1位。北海道白金75.5 mm/1hなど史上1位多数。全国58地点で猛暑日。



今月のひまわり画像—2016年7月

記録に彩られた台風第1号



第1図 2016年7月7日12時（日本時間）の台湾付近における可視画像。図中の×印は、同月7日21時から10日09時までの12時間毎の中心位置。

2016年前半は熱帯域で雲域がなかなか発達しなかった。後半に入った矢先の7月2日21時（日本時間）にカロリン諸島付近で発生した熱帯低気圧が、ようやく3日09時に台風第1号（Nepartak（ニパルタック）：ミクロネシアで有名な戦士の名前）にまで発達した。この第1号は記録づくめの台風であった。

まず、第1号が発生した日時は、1998年7月9日に次ぐ統計上2番目の遅さであった。第1号の発生が記録的に遅かったため、台風が発生していない期間も記録的で、昨年12月17日に台風第27号が消滅してから199日間となり、1997年12月22日～1998年7月9日の最長記録に並んだ。

第1図は、7日12時の台風第1号の可視画像である。長期間、台風が存在していなかったことから、近傍の海面水温も30℃以上と高く、その後順調に発達を続け、6日15時には中心気圧が900 hPaに達する猛烈な台風となった。7月の台風としても稀な強さとなっ

たが、台風第1号としては統計上最強の勢力にまで発達した。同図では、解像度が上がったひまわり8号の画像により、台風のシャープな眼や眼壁の雲がはっきりと確認できる。第1号の眼を取り巻く円形度は高く、発達した雲域の直径は約200 kmとコンパクトであったことが、この台風の特徴の一つであった。

台風第1号は明瞭な眼を維持しながら、台湾に接近し、非常に強い勢力を保ったまま8日に台湾を直撃した。中心が通過したとみられる台東県では大雨や暴風により、死者3名、負傷者142名及び50万戸以上停電（7月8日16時、中央災害対策センター（台湾）発表）という被害を生じた。その後、第1号は台湾海峡を通過し、9日に華南へ上陸後、急速に衰弱した。同日21時には熱帯低気圧となったものの、中国本土でも死者69名、家屋の損壊等約1100億円の被害をもたらした（同月14日現在）。

（大阪管区気象台気象防災部予報課 河野麻由可）